

2019年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	福岡教育大学附属福岡中学校
-----	---------------

I 概要

1 選択したテーマ

テーマ	取組項目	選択
①交流及び共同学習を継続的な取組とするために、教育課程への位置付け等、組織的かつ計画的な取組の在り方に関する研究	(ア) 通常の学級に在籍する全ての児童生徒等に交流及び共同学習の機会を学校として計画的に実施するための方法に関する研究	○
	(イ) 障害のある児童生徒及び障害のない児童生徒等が、交流及び共同学習を通じ、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むために、交流及び共同学習のねらい、事前学習と事後学習、年間指導計画への位置付けの効果的な工夫に関する研究	○
	(ウ) 通常の学級の担任などの教職員が主体的に交流及び共同学習に取り組むための体制整備の在り方及び教職員の意識向上に関する研究	
	(エ) ICTを活用した交流及び共同学習に関する研究	
②学校間交流や居住地校交流等を進めるための関係する教育委員会との連携の在り方の研究	(ア) 特別支援学級が設置されていない小・中学校における学校間交流を推進するための学校と教育委員会の連携の在り方に関する研究	
	(イ) 高等学校における学校間交流や居住地校交流を進めるための学校と教育委員会の連携の在り方に関する研究	
	(ウ) 学校間交流や居住地校交流等を進めるための市町村教育委員会と都道府県教育委員会又は市町村教育委員会と市町村教育委員会の連携に関する研究	
	(エ) 居住地域の小・中学校等に副次的な籍を置くなど、居住地域との結びつきを強める工夫に関する研究	
③障害のある大人の人との交流や地域における高齢者等の世代を超えた交流の在り方に関する研究	(ア) 障害のある大人の人との交流に当たり、福祉部局や社会福祉法人等と連携したネットワーク形成に関する研究	
	(イ) 教育委員会と地域の関係者による「心のバリアフリー連絡協議会(仮称)」を設置し、取組状況や実施体制などの成果と課題について協議するなど、地域に心のバリアフリーの意識を啓発し根付かせるための研究	
	(イ) 高等学校の生徒や特別支援学校の高等部の生徒が、継続的に地域の障害のある大人の人との交流をするための方策に関する研究	

2 事業概要

1. 本事業の目的

附属福岡中学校の特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を通して、互いの理解を深め、通常の学級の生徒の多様性を尊重する心を育てることを目的とする。その際、以下の内容を留意し本事業を推進していく。

- 交流及び共同学習の対象を学校内から学校外へ広める。
- 中学生としての発達段階を踏まえた障がい者理解を促進するための交流及び共同学習の在り方を探る。また、附属福岡中学校では、「障がい者理解」のゴールとして、「多様性を尊重する心」、「障がいの有無にかかわらず自他ともに価値ある一員であると認め合うことができること」と考えているが、この事業を通して中学校段階で求められる「障がい者理解」とは何であるかという点も探っていく。
- 交流及び共同学習の効果を高めるための事前・事後の学習の在り方を探る。

2. 本事業の概要

テーマを「スポーツと文化で学ぶ『ダイバーシティ附属福岡中』」とし、中学生の発達段階を踏まえ、次のように「こころのバリア」を定義した。

障がいがある人と障がいがない人が互いを知らないが故に、うまく交流ができずに戸惑ったり、思い込みによる誤解が生まれたりすること

また以下にあげるような障がい者理解を目指し、本事業に取り組んだ。

障がいのない生徒が、障がいのある生徒に必要不可欠なサポートから障がい者理解が深まり、障がいのある生徒と共に同一の行動を行いそれが強化されることで、共生社会の実現への理解を広げること

スポーツにおいては福岡市中学校特別支援学級総合体育大会（ファインピック）における運営補助を中核の取り組みに据え、文化芸術では本校「文化発表会」における合唱・ミュージカル（特別支援学級）の共同発表を中核の取り組みに据えた。本事業で得られた成果については、2019年度末を目途に、リーフレットを作成し、福岡県内をはじめ九州地区の中学校に広く発信していく。また、同じ内容を本校ホームページに掲載し、広く社会に対して発信していく。さらには、附属福岡中学校の教育研究発表会や授業づくり研修会の機会などを利用して、本事業の成果を具体的に発信していく。

3 事業の成果

【A：スポーツ】について

① 福岡市中学校特別支援学級総合体育大会（ファインピック）

本校、通常学級生徒1年生は例年、福岡市中学校総合体育大会「ファインピック」の競技補助を行っている。事前の学習は、アイマスク・車いす体験を実施し、普段の生活の中で気にとめることがないことでも、障がいがある人にとっては困り感があることを体感することができた。ファインピック補助員として参加したことで、競技する選手に対しての関わり方を学ぶ機会となった。事後の学習は、これまでの学習をふり返り、ポスターにまとめ、掲示し、保護者や来校者に対して、取り組みを紹介した。生徒からは「身の回りからバリアフリーを進めなければならないが、最初に変えることができるのは自分だ」といった自己を見つめることができた。

② 車いすバスケットボール大会観戦に関わる学習

毎年、北九州で『チャンピオンズカップ 国際車いすバスケットボール大会』が行われている。本年度は、この大会に全校生徒で観戦・応援に行った。そのための事前の学

習として、車いすバスケットボールの競技の特性を知ると共に、障がい者スポーツへの関心を高めるために、プロの車いすバスケットボール選手による講演会を行った。ここでは、共生社会を創るために必要なことを感じ取ることができた。その後、実際の試合を観戦したことで、選手達がスポーツを通して、思いやっている姿や迫力のあるプレーを見ることができた。事後の学習として、道徳の「相互理解・寛容」の項目で、自分のできることを探りながら、「思いやり」の在り方を多面的に考えた。このことを通して、「相手のことを尊重すること」「いろいろな人の立場にたって物事をみること」の大切さに気づくことができた。

【B：文化芸術】について

① 「文化発表会」（4組ステージ，合唱コンクールにおける共同学習）

本校では文化発表会において毎年特別支援学級の生徒によるステージ発表を行っている。本年度は、「通常学級の生徒と特別支援学級の生徒と一緒に文化発表会を作り上げる」という目的の下、二つの取り組みを行った。ステージ発表では、ステージ実行委員会を各クラスの有志から発足し、通常学級と特別支援学級の生徒全員でステージを盛り上げるような取り組みを考えさせた。さらに、クラスの合唱に特別支援学級の生徒も一緒に参加をした。事前に、授業や生徒の実態、個別の支援方法など、特別支援学級の教員と音楽科の教員が事前に打ち合わせや授業の調整を行い、取り組んだ。これらを通して、それぞれの良さに気づき、相互理解が深まってきている。

② 福岡市中学校特別支援学級合同作品展（ファインアート）

福岡市では、特別支援学級の生徒達の作品展（ファインアート展）が行われており、本校の特別支援学級の生徒も作品展を行っている。本年度は、障がいに対する認識がより深いものへと変わるように、学校全体で展示見学に行った。事前に、障がいの有無にかかわらず、個々のよさに気づくことができるように、障がいがある人の芸術活動を支援してある方からの講演会を行った。この取り組みを通して、個性を尊重することの大切さに気づくことができるようになってきた。

4 事業の課題とその解決のために必要な取組

今年度の成果と課題を次に示す。

○ これまでは「文化・芸術」面からのアプローチが校内の発信のみしかできていなかったが、実際の作品に触れさせたり、一緒に活動に取り組みせたりすることで、生徒にそれぞれがもっている良さに気づかせることができた。

○ 主となる活動に対して、事前・事後の活動を位置付けることで、生徒に目的意識や活動の意味を見いださせることができ、障がい者理解を深めさせることができた。

● 共生社会を実現させるためには、設備や制度、考え方などの社会的障壁にも気付かせることが必要である。

● 今年度の取り組みを一人一人の日常の行動につなげることができなかった。

次年度に向けて、今年度の取り組みをベースに共生社会の実現に向けて、障がいのある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」の理解について推進していく。具体的には、教員に対して障害理解の研修や障害平等研修を実施し、社会の障壁について理解を進めていく。また、生徒に対しては学級活動で障害理解教育を推進していく。その中で、「社会の障壁を見つけよう」という題材を使い、設備や制度、考え方などの社会的障壁に気付かせることができるようにしていく。